

総合的な学習の時間

1 高等学校学習指導要領の改訂に向けて（中央教育審議会答申より）

(1) 現行学習指導要領の成果と課題

中央教育審議会答申では、現行学習指導要領における総合的な学習の時間の成果として、次の点を挙げている。

- ・全国学力・学習状況調査の分析等において、総合的な学習の時間で探究のプロセスを意識した学習活動に取り組んでいる児童・生徒ほど各教科の正答率が高い傾向にある。
- ・探究的な学習活動に取り組んでいる児童生徒の割合が増えている。
- ・総合的な学習の時間の役割はPISAにおける好成績につながったことのみならず、学習の姿勢の改善に大きく貢献するものとしてOECDをはじめ国際的に高く評価されている。

一方、次のような課題を示している。

育成する資質・能力の視点	探究のプロセスに関する視点	高等学校における総合的な学習の時間の更なる充実という視点
総合的な学習の時間を通してどのような資質能力を育成するのかということや、総合的な学習の時間と各教科等との関連を明らかにすることについては学校により差がある。	探究のプロセスの中でも「整理・分析」、「まとめ・表現」に対する取組が十分ではない。	小・中学校の取組の成果の上に高等学校にふさわしい実践が十分展開されているとは言えない状況にある。

(2) 課題を踏まえた総合的な学習の時間の目標の在り方

これまでは総合的な学習の時間において育成を目指す資質・能力・態度として、「学習方法に関すること」、「自分自身に関すること」、「他者や社会とのかかわりに関すること」の三つの視点が例示されていた。これら三つの視点と、資質・能力の三つの柱に即して、総合的な学習の時間で育成を目指す資質・能力について整理すると次のようになる。

知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
<ul style="list-style-type: none"> ○ 課題について横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して獲得する知識及び概念 ○ 課題について横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して獲得する技能 ○ 探究することの意義や価値の理解 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 探究することを通して身に付ける課題を見だし解決する力 <ul style="list-style-type: none"> ・ 課題設定 ・ 情報収集 ・ 整理・分析 ・ まとめ・表現 など 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 主体的に探究することの経験の蓄積を信念や自信、自己肯定感につなげ、さらに高次の課題に取り組もうとする態度 ○ 協働的に探究することの経験の蓄積を自己有用感や社会貢献の意識へとつなげ、よりよい社会の実現に努めようとする態度 など

これらを踏まえ、総合的な学習の時間においては、次に示す「探究の見方・考え方」を働かせて、よりよく課題を解決し、自己の在り方生き方を考えることを通して、資質

能力を育成することを目標として示す必要があること、高等学校の総合的な学習の時間を、より探究的な時間となるよう位置付けることが、答申に示されている。

＜探究の見方・考え方＞

各教科等における見方・考え方を総合的・統合的に活用して、広範かつ複雑な事象を多様な角度から俯瞰して捉え、実社会や実生活の複雑な文脈や自己の在り方生き方と関連付けて問い続けること。

(3) 具体的な改善事項

ア 教育課程の示し方の改善

(ア) 資質・能力を育成する学びの過程についての考え方

総合的な学習の時間においては、次のような探究のプロセスを通して資質・能力を育成する。

課題の設定	情報の収集	整理・分析	まとめ・表現
<ul style="list-style-type: none"> ○ 複雑な社会状況を踏まえて課題を設定する。 ○ 仮説を立て、それに適合した検証方法を明示した計画を立案する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 目的に応じて臨機応変に適切な手段を選択し、情報を収集する。 ○ 必要な情報を広い範囲から迅速かつ効果的に収集し、多角的、実際に分析する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 複雑な問題状況における事実や関係を構造的に把握し、自分の考えを形成する。 ○ 視点を定めて多様な情報から機能的、演えきの考察する。 ○ 事実や事実間の関係を比較したり、複数の因果関係を推理したりして考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 相手や目的、意図に応じて手際よく論理的に表現する。 ○ 学習の仕方や進め方を内省し、現在及び将来の学習や生活に生かす。

この過程の順序は入れ替わったり、一体化したり、重点的に行われたり、一連の過程がより大きな過程の一部になったりもする。生徒にとっては試行錯誤を繰り返すことにより、こうした過程を行ったり来たりすることも重要であり、時には失敗したり立ち止まって前提を疑って考えることがあってこそ探究的な学びとなる。

(イ) 指導内容の示し方の改善

学習指導要領において総合的な学習の時間の目標を示し、各学校においてそれを踏まえて目標や内容を設定するという基本的な構成は維持する。

また、全体計画及び年間計画の作成に当たり、育成する資質・能力を明示するとともに、生徒や保護者、地域・社会にも積極的に説明し共有するよう求められることが考えられる。

イ 教育内容の改善・充実

(ア) 構成の見直し

高等学校の総合的な学習の時間については、名称を「総合的な探究の時間」などに変更することを含め位置付けを見直す。

高等学校における「総合的な探究の時間」(仮称)
<ul style="list-style-type: none"> ○ 各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を総合的・統合的に働かせる。 ○ 自己の在り方生き方に照らし、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら「見方・考え方」を組み合わせて統合させ、働かせながら、自ら問いを見だし探究することができる力を育成する。 ○ 特定の分野を前提とせず、実社会や実生活から自ら見いだした課題を探究していくことを通して自己のキャリア形成の方向性を見いだすことにつなげていく。

基盤として

小学校、中学校における取組
<ul style="list-style-type: none"> ○ 自ら問いを見だし探究することのできる力を育成する。 ○ 探究的な学習が自己の生き方に関わるものであることに気付くようにする。

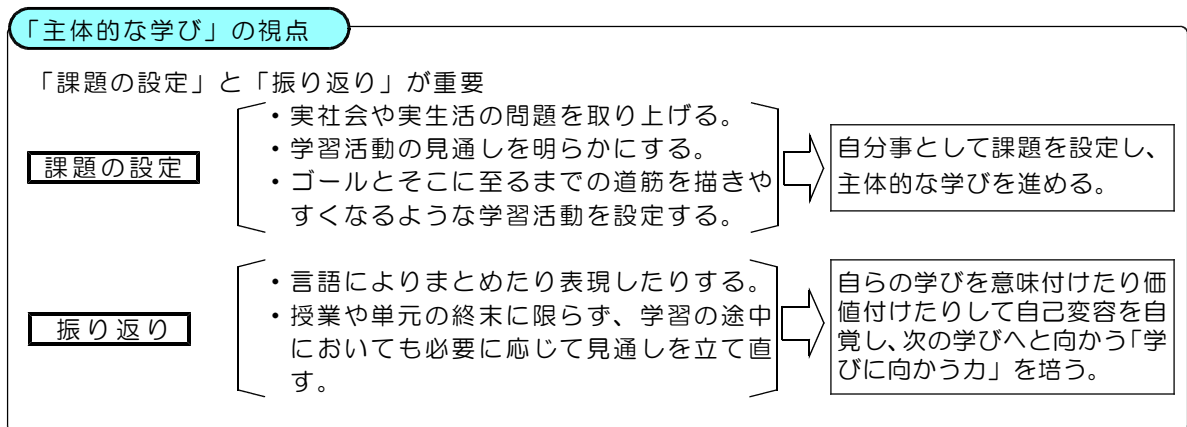
(1) 教育内容の見直し

現行の学習指導要領では、総合的な学習の時間の学習課題の例示として、国際理解、情報、環境、福祉・健康などの横断的な課題や地域の人々の暮らし、伝統と文化など地域や学校の特色に応じた課題などを示しているが、教科横断的な課題については、各教科等を関連付け、全体としてどのような資質・能力を育成していくかという視点も重要であることから、答申において次のような視点が示された。

持続可能な社会という視点	情報活用能力の育成、プログラミング的な思考や社会との関わりの視点
<ul style="list-style-type: none"> ○ 持続可能な社会の視点から求められる資質・能力の育成 <ul style="list-style-type: none"> ・総合的な学習の時間で探究的に学習する中で、より確かな力となる。 ・どのようなテーマを学習課題とするかではなく、必要とされる資質・能力を育むことを意識した学習を展開することが重要 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 身に付けるべき教科横断的に活用できる「学び方」 <ul style="list-style-type: none"> ・情報の集め方や調べ方 ・整理・分析の仕方 ・まとめ方や表現の仕方 ・学習の過程において情報手段の操作 など ○ 小学校段階におけるプログラミングの体験 <ul style="list-style-type: none"> ・総合的な学習の時間においても取り入れる

ウ 学習・指導の改善充実

学習・指導の改善充実について、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、次のように示されている。



「対話的な学び」の視点

対話的な学びのよさ

- 他者への説明することにより生きて働く知識や技能の習得が図られる。
- 他者から多様な情報が収集できる。
- 新たな知を創造する場を構築できる。

様々な対話の姿や対象

- 学校内において他の生徒と活動を共にする。
- 一人でじっくりと自己の中で対話する。
- 先人の考えなどと文献で対話する。
- 離れた場所をICT機器などでつないで対話する。 など

「深い学び」の視点

学習過程の質の向上

- 実社会・実生活に即した学習課題について探究的な学習
 - ・各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を総合的に働かせる。
 - ・「課題の設定」の場面で課題を自分事として捉えること。
 - ・「整理・分析」の場面で俯瞰して捉え内省的に考えるという「探究の見方・考え方」働かせること。

- 個別の知識や技能は関連付けられて概念化される。
- 能力は実際の活用場面と結び付いて汎用的になり、多様な文脈で使えるものとなる。

(4) 探究的な学習における学習指導

現行学習指導要領においても総合的な学習の時間については、「横断的・総合的な学習」や「探究的な学習」とすることが示されている。育成すべき資質や能力及び態度を踏まえるべき視点と、課題発見・解決能力、論理的思考力等の育成に資する探究のプロセスを整理し、各過程における学習活動の事例を次に紹介する。

育成すべき資質や能力及び態度について踏まえるべき視点

具体例 高齢化社会と福祉について探究的に学習する場合

学習方法に関すること

- 情報を収集し分析する力
 - 分かりやすくまとめ表現する力
- 【具体例】
- ・高齢化社会の現状を多角的に情報収集し、どのような特徴があるかを分析する。
 - ・福祉施設でのボランティア活動の経験を、相手に応じた方法で分かりやすく伝える。

自分自身に関すること

- 自らの行為について意思決定する力
 - 自らの生活の在り方を考える力
- 【具体例】
- ・自らの生活を振り返り、自分にとり組もうとする。

他者や社会との関わりに関すること

- 他者と協同して課題を解決する力
 - 課題の解決に向けて社会活動に参加する態度
- 【具体例】
- ・これからの福祉の在り方を考えるために、異なる立場の意見を生かそうとする。
 - ・支え合う社会の実現に向けて、地域活動に参画したり貢献したりする。

探究のプロセス

①課題の設定

- 体験活動を対比して課題を設定する
- シミュレーションで課題を設定する
- 資料を比較して課題を設定する
- グラフを読み解いて課題を設定する
- ウェビングマップで課題を設定する
- KJ法的な手法で課題を設定する など

【実践例 課題となる事象を関連させたグラフの提示】

- ①人口構成と高齢単身世帯数の推移のグラフから特徴を読み取る
- ②読み取った特徴から高齢者の増加の原因など課題を明らかにする
- ③関連して調査する必要がある項目があるか考える

ポイント

- 複数の統計資料からデータを比較したり、自分自身の体験と関連付けたりして考えるとともに、話し合いによって他者の読み取り方を参考にする

②情報の収集

- アンケート調査で情報を収集する
- インターネットで情報を収集する
- 実験、観察を通して情報を収集する
- 形式をそろえて情報を集積し蓄積する など

③整理・分析

- 地図を使って整理・分析する
- 時系列表で整理・分析する
- KJ法的手法で整理・分析する
- マトリックス表で整理・分析する
- グラフを作って整理・分析する
- 統計的手法で整理・分析する など

【実践例 アーケード街の歴史をまとめる】

- ①アーケード街の変遷や人々のくらしの変化について、古地図や文献、聞き取りなどによって情報を収集する
- ②得られた情報をカードに書き出し、時系列に並び替える
- ③アーケード街の栄枯盛衰と人々のくらしの変化を対応付けながら整理する

ポイント

- 文字情報に加えて映像資料等、多様な資料を収集する
- 時系列で整理する際には、過去の情報を整理したり、これからの取組を並べたりする

④まとめ・表現

- レポート、論文としてまとめ・表現する
- プレゼンテーションとしてまとめ・表現する
- まとめ・表現のパネルディスカッションを行う
- 地域社会に向けて報告会を開く など